令和７年度　幼稚園教育課程研究協議会　協議資料・振り返り

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 施設名 | 氏名 | 職名 | 経験年数 | 担当 |
|  |  |  |  |  |

協　議　資　料　①

|  |
| --- |
| 〈協議主題〉　幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について　協議の視点①　幼児教育施設間、幼児教育施設と小学校間における相互理解の促進 |
| １　実践にあたって　※　〈協議主題〉協議の視点①に関わって、具体的に何に焦点を当てて実践したのか、また、なぜその実践をしたのかを簡潔に記述します。　※　相互理解を促進する実践がイメージできない人は、自身の園で実施している「子供同士の園・学校交流」を取り上げてみましょう。幼児と児童、それぞれについての「活動のねらい」と「実際の姿」（想定している姿）、教職員の指導・援助等を整理してまとめると、発達段階の特性や交流の意義がみえてきます。 |
| ２　実践の内容　※　写真等を掲載する場合は、個人が特定されることがないよう留意しましょう。　※　図や表を効果的に用いて、事実と考察を分けてまとめることに挑戦しましょう。 |
| ３　実践の成果と課題　※　幼児の様子や活動の変容、教職員自身の指導の変容を、具体的に記述します。また、課題を明らかにし、今後の方向性を定めましょう。 |

協　議　資　料　②

|  |
| --- |
| 〈協議主題〉　幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について協議の視点②　架け橋期のカリキュラムの開発・実践 |
| １　実践にあたって　※　〈協議主題〉協議の視点②に関わって、具体的に何に焦点を当てて実践したのか、また、なぜその実践をしたのかを簡潔に記述します。　※　「架け橋期のカリキュラムって？」という人は、まずは、園側の「アプローチカリキュラム」を見直すため、自身の保育実践について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、指導の意図と子供の学びや成長をまとめてみましょう。 |
| ２　実践の内容　※　記述の仕方は、協議資料①に同じです。協議資料①②の分量のバランスは各自で調整しましょう。 |
| ３　実践の成果と課題 |

振　り　返　り

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| １　【全体会】文部科学省初等中等教育局　幼児教育調査官　平手　咲子　氏による講話を聴講しての感想

|  |
| --- |
|  |

２　【分科会】実践発表、研究協議を受けて、感じたことや今後、取り組みたいこと

|  |
| --- |
|  |

３　実態調査（いずれかを選択し、四角で囲む。）（１）　「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」等に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解していますか。〔よく理解している・おおむね理解している・あまり理解していない・全く理解していない〕（２）　幼保小連携協議会や園内・所内の研修会等の中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が話題となることがありますか。〔よく話題になる・ときどき話題になる・あまり話題にならない・全く話題にならない〕 |